

—— 編集後記 ——

もともと濁った私ののうみそがいつそうぼやけてポーッとしていたあの日以来の数週間。その間も、いち早く澄みきった頭脳を取り戻され、校正を下さったご執筆者の先生方、そして、着々と仕事を進めて発行へとこぎつけて下さった豊福さん、本当にどうもありがとうございました。(S. H.)

予期せぬ震災のため、遅れはしましたものの、無事発行にこぎつけられました事は感謝です。原稿をお寄せ下さいました諸先生に、特に私共の願いをいれて、ご多忙の中お書き下さいました國信先生に、厚く御礼申し上げます。

「女性学」に関して、議論がかみあわないままの発行は残念ですが、啓蒙され、触発されて、我々の中で討論がみのりあるものに発展していきます事を願っております。(T. H.)

ほんの名前だけの編集委員として委員会もよく休み他の委員に迷惑をかけっ放しですが、折しも当地方は未曾有の震災に見舞われ、学内外に駆けまわっています。この種の災害は特に女性の恐怖心を極限にまで増大させる性質のものようですが、それにも拘らず、救援に看護に献身的につくしている女性を沢山みるにつけ頭の下る思いです。次は「震災と女性」といった特集を組んだらどうでしょうか。(M. I.)

考えても、考えても、奥の深い学問・女性学、まだまだ勉強していかねばと痛感いたしました。大変よい勉強をさせていただき、ありがとうございました。(N. I.)

昨年暮に長年の論敵だったフェミニストが癌で若死した。線香を上げに行ったら旧友である夫君から晩年は宗教的傾向を深め、何度か印度に行ってサイババに帰依していたと聞かされた。「世紀末だね」と呟いたら彼も曖昧な顔でうなずいた。「どかが世紀末なんだ」ときかれても困るけれど。(T. U.)

